

研究プロジェクト

ASEANアントレプレナーシップ研究プロジェクト

「大学生のアントレプレナーシップの国際比較」

ASEANアントレプレナーシップ 研究プロジェクト代表

(早稲田大学参与) 大江 建

当プロジェクトでは、わが国とASEAN各国の大学生を対象に、Caird (2013) の General measure of Enterprising Tendency Test (GET2) を行い、各国の大学生の起業家的な性格特性を把握する。このテストは、人の性格特性は教育によって変化するものであり、テストにより測定が可能であるという考えに基づいて開発されたものである。その内容は、54の質問により、起業家の主な性格特性である「達成欲求」、「自律欲求」、「創造性」、「リスクテイキング」、「統制の所在 (locus of control)」を測るというものである。当研究ではこの54の質問に加えて、国籍、性別、両親の職業、大学での専攻などのフェイスシートに加え、将来の起業意向、起業への自信、希望する将来の就業形態等70余りの質問について訊き、個人属性やキャリア観と、起業家特性などとの相関性をみていく。

当プロジェクトの代表である大江建は、2014年度よりASEAN各国において、各地の大学や中小企業支援団体と連携して、起業家教育の実施、アーリーステージにあるベンチャー企業の事業性評価、インキュベーションマネージャーの育成などを手掛けてきた。当研究では、そこで構築したネットワークを十分に活用し、各国の大学生にアプローチを図る。また、日本国内の大学生については、プロジェクトメンバーのネットワークを活かして大学生にアプローチし、データの収集にあたる。

具体的な研究活動は次のとおりである。まず、初年度には、6月～8月の3ヵ月間を準備期間とし、この間に前述のアンケートサイトを立ちあげる。また、同期間中にパイロット調査として日本人学生約100人を対象にGET2テストを実施し、日本での状況を把握するとともに、外国での実施に向けての運営を試行する。初年度9月～次年度6月までをデータ収集期間とし、ASEAN各国ならびに日本国内でのデータ収集にあたる。収集されたデータについては、まず、因子分析により妥当な因子構造を明らかにする。そ

の後、「起業活動への自信の有無」、「起業活動への意欲の有無」を被説明変数としてロジスティック回帰分析を行い、起業への自信や意欲に最も影響する因子を特定する。

本研究の新規性は、わが国およびASEAN地域の大学生の起業家度を共通の指標で測り、各国の特徴を明らかにすることにある。この研究の成果として、次の点を挙げる。

(1) 日本の大学生の起業家的な特性をASEAN地域の学生と比較し、その特徴を明らかにする。また、その相違点の日本の学生の起業というキャリア選択への影響を探る。

(2) 日本およびASEAN各国の学生について、国別の起業家特性の傾向をまとめる。

また、この成果の実務的含意として、次のような3つの成果の獲得を目指す。一つは、本研究の日本の大学生に関する分析結果を、大学生向けアントレプレナーシップ教育プログラム構築に活かすということである。起業家的な特性に関して、どのような自己認識を持っている者が起業への自信や意欲を持っているのかを明らかにすることによって、起業家教育で重視する点を見出したい。二点目として、日本人学生とASEAN各国の学生を交流させて行う、グローバル・アントレプレナーシップ教育を構築するうえでの基礎データとしたい。彼らがそもそもどのような特性を持っているか、またその起業マインドを形成するためにどのような因子を強化すべきかを理解し、有効なプログラムを構築につなげる。三点目として、ASEAN進出を目指す日本のベンチャー企業・中小企業のローカル人材獲得と育成のための基礎データにするということである。新規進出先での事業展開にはアントレプレナーシップある人材が不可欠であり、進出先での大きな課題は現地での人材の確保である。ローカル人材のアントレプレナーシップの特徴を当研究により把握することは、適性ある人材の確保とトレーニングに対しても有益な情報を提供につながるものと考えられる。